

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第800号 平成26年9月8日

アンテナと引き出し

最近、いろいろな方から「毎日のように、塾頭通信を書くというのは大変ですね」とか「あれだけ書けるというのは、引き出しが沢山あるんですね」等といわれます。

確かに、毎日のように400字詰め原稿用紙を4枚前後書き続けるというのは、時間もかかりますし大変といえば大変です。しかし、苦痛だと感じた事も、書くのを止めようと思った事ありません。もっとも、1000号に達したら心が折れてしまうかも知れませんが…。

私にとって一番の恐怖は、頭が真っ白になって書くべきテーマが浮かばなくなる事ですが、今のところはそんな心配はなさそうです。

800号に達したというのは、私にとって書くべき800のテーマがあったという事ですが、それは別に、私の中に引き出しが沢山あるという事ではありません。むしろ、私の引き出しは、分野も限られていますし底も浅いので、私の引き出しに入っている材料は哀しくなる程に乏しいのが現実です。

それでも800回原稿を書き続けて来られたのは、世の中の動きの速さにあるといえるでしょう。世の中の変化に目を凝らしていると、目の粗い私のアンテナでもキャッチ出来るキーワードが浮かんで来ます。

世の中の変化に対する私の関心の度合いは、塾頭通信を書き始める以前と今とでは随分と違って来たように感じています。今までなら軽く聞き流していたようなニュースが、本能的に耳に残るようになって来ました。「これは書けるぞ」「これは書かなきゃ」といった具合にです。

世の中の動きを見るという意味では変わらないのですが、一番変わったと感じるのは、目線の違いです。「見えたものを書く」から「書くために見る」といったら良いでしょうか。

「書くために見る」という目線で世の中を見ると、今まで見逃していたものも見えて来るように感じますし、何より、例えば新聞も1紙だけ読めば済むという訳にはいかななくなるというように、上にも下にも、右にも左にもウイングを広げる必要が出て来ます。そうすると、関心が枝分かれするように広がって行きますので、その分引き出しも少しは増えているのかも知れません。

塾頭通信を書きながら、自分の力不足、勉強不足を痛感する日々ですが、同時に、書き続ける事で世の中の動きに正対しようとしている自分があるように感じています。

す。そうした自分の気持ちを支えているのは、読者の存在です。

800号に到達出来たのも、私の駄文に付きあって下さっている多くの方々のお陰だと、改めて感謝しています。（塾頭：吉田 洋一）